

第18回 まちの持続可能性

2014年5月に日本創世会議が公表した消滅可能性都市の衝撃から9年経ちました。つい先日には、新たに50年後の将来人口推計が発表され、2040年に高齢化のピークを迎え、2070年には日本の全人口が、8700万人になるとのこと。今よりも3割減少することになります。これは全国の話で、地方ではより一層減少することが懸念されています。

人口減少による縮小社会への対策は、高齢者や外国人による労働力の確保や国内だけでなくインバウンド（海外から）の観光客の来訪による経済の活性化とともに、人口減少を前提とした行政サービスを周辺自治体と連携し、医療、教育、産業振興、地域交通などの仕事を分担、協力しなければ将来にわたって維持はできないこととなります。

松崎町では人口減少下でも、誇り高く、穏やかに、豊かに生きられるまちを目指しております。そのためには、誰かがやるのではなく、誰もがやる必要があります。町内外問わず、我がふるさと松崎町のことを考え、行動いただける方々とともに、官民が”きょうどう”し、この町の持続可能性を高めていきましょう。